

平成 19 年 5 月 2 日

各 位

会 社 名 株式会社九州親和ホールディングス
代 表 者 名 代表取締役社長 荒木 隆繁

平成 19 年 3 月期業績予想および配当予想の修正、
ふくおかフィナンシャルグループへの経営支援要請に関するお知らせ

平成 18 年 11 月 24 日に公表いたしました平成 19 年 3 月期の当社および当社の子会社である株式会社親和銀行（以下、「親和銀行」といいます。）の業績予想および配当予想を修正するとともに、本日、株式会社ふくおかフィナンシャルグループ（以下、「ふくおか F G」といいます。）に対して親和銀行の経営支援要請を行いましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

当社ならびに親和銀行は、平成 18 年 10 月締結の株式会社福岡銀行（以下、「福岡銀行」といいます。）ならびに株式会社ジェイ・ウィル・パートナーズとの業務・資本提携に基づいて、親和銀行の不良債権処理の加速化およびお取引先企業の事業再生・早期健全化に全力で取り組み、親和銀行の経営改善また業績回復に向けて役職員一丸となって努力してまいりました。

しかしながら、親和銀行の平成 19 年 3 月期決算は、上期の金融庁検査を踏まえた大幅な不良債権処理に加えて、下期においても与信先の業況悪化等により更なる与信関連費用が発生したため、業績予想を下方修正し当期損失が拡大する見込みとなり、自己資本比率は 4% 台半ばとなる見通しです。また、当社は、保有している親和銀行株式の減損処理を行い、当社単体において損失を計上するため、配当原資が確保できず、普通株式および優先株式は無配となる見込みであります。また、平成 20 年 3 月期以降についても業績改善の蓋然性は低く、普通株式および優先株式の復配は難しい状況であります。

かかる状況を鑑みますと、親和銀行の将来に亘る単独存続は厳しく、自力による経営再建は困難であると判断するに至りました。

つきましては、親和銀行が地域のお取引先企業および個人のお客さまに対して十分な金融サービスを安定的に提供できる経営体制を確保するため、親和銀行の事業継続性の維持に対して、ふくおか F G に資本支援を含む経営支援を要請した次第でございます。

ふくおか F G からは、支援要請を前向きに検討いただくと伺っており、今後はふくおか F G のご支援のもと、親和銀行の経営再建を図ってまいりたいと存じます。具体的方策につきましては、決定次第お知らせいたします。

このたびの当期損失拡大、普通株式ならびに優先株式の配当見送り、経営健全化計画の未達という事態を招いたことにつきましては、経営として厳粛に受け止めるとともに、株主の皆さまに心より深くお詫び申し上げます。

.業績予想および配当予想の修正

1. 平成 19 年 3 月期業績予想 (平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日)

【株式会社九州親和ホールディングス】

(単位：億円)

	連 結			単 体		
	経常収益	経常利益	当期純利益	営業収益	経常利益	当期純利益
前回公表予想(A)	655	301	384	9.9	3.2	2.5
今回修正予想(B)	740	573	673	9.9	3.0	707.4
増減額(B-A)	85	272	289	0	0.1	709.9
増減率(%)	13.0	90.4	75.3	0.2	5.6	28,397.2
平成 18 年 3 月期実績	884	140	53	21	15	14

【株式会社親和銀行】

(単位：億円)

	連 結			単 体		
	経常収益	経常利益	当期純利益	経常収益	経常利益	当期純利益
前回公表予想(A)	652	303	385	646	303	385
今回修正予想(B)	734	576	676	728	575	676
増減額(B-A)	82	273	291	82	272	291
増減率(%)	12.6	90.2	75.7	12.8	89.7	75.7
平成 18 年 3 月期実績	864	121	51	854	122	50

2. 修正の理由

(1) 親和銀行

平成 19 年 3 月期の親和銀行の単体業績は、経常収益については、不良債権処理に伴う貸出金減少および他行との競争激化による利鞘の縮小により資金利益が減少した一方、有価証券のポートフォリオの見直しにより含み益を実現したため、前回予想比 82 億円増加の 728 億円となる見込みです。

しかしながら、上半期における多額の不良債権処理に加え、下半期においても与信先の業況悪化等により更なる引当強化を行ったことから一般貸倒引当金を含む与信関連費用 832 億円を計上し、経常利益は前回予想比 272 億円減少の 575 億円、また、資産の健全性向上の観点から繰延税金資産の残高圧縮を下半期にも実施して年間 107 億円圧縮したことから法人税等調整額を 103 億円計上し、当期純利益は前回予想比 291 億円減少の 676 億円となる見込みとなりました。

なお、親和銀行の連結業績につきましては、主に親和銀行の単体業績予想の修正によるものです。

【親和銀行（単体）の平成 19 年 3 月期業績予想】

（単位：億円）

	前回公表予想 (A)	今回修正予想 (B)	増減額 (B)-(A)	18年3月期 実績
業 務 粗 利 益	523	554	31	649
経 費	309	303	6	300
業務純益（一般貸倒引当金繰入前）	214	251	37	349
（除く国債等債券損益、住宅ローン 証券化による譲渡益）	203	192	11	216
一般貸倒引当金繰入額	89	66	23	32
業 務 純 益	303	318	15	317
臨 時 損 益	605	893	288	194
うち不良債権処理額	588	899	311	312
経 常 利 益	303	575	272	122
特 別 損 益	1	5	4	5
法人税等調整額	76	103	27	60
当 期 純 利 益	385	676	291	50

（２）九州親和ホールディングス

当社単体業績につきましては、子会社である親和銀行が多額の損失を計上し、純資産額が大幅に減少したことで、当社保有の親和銀行株式の減損処理を行うため、当期純利益は前回予想比 709 億円減少の 707 億円となる見込みとなりました。

当社連結業績につきましては、親和銀行株式にかかる損失認識について相殺消去されるため影響を受けず、当期純利益は前回予想比 289 億円減少の 673 億円となる見込みです。

平成 19 年 3 月末の自己資本比率については、銀行単体で 4%台半ばを見込んでおります。

3. 配当予想の修正

平成 19 年 3 月期において、当社は配当可能利益を確保できないため、誠に遺憾ではございますが、普通株式および優先株式ともに期末配当金は無配となる見込みです。

（円）

	普通株式		第 1 回優先株式		第 3 回優先株式	
	1 株当り年間配当金		1 株当り年間配当金		1 株当り年間配当金	
	期末配当金		期末配当金		期末配当金	
前回公表予想	0.00	0.00	12.50	12.50	8.38	8.38
今回修正予想	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

（注）上記予想は、現時点において入手可能な情報に基づいて算出しておりますが、実際の業績は、今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

・経営支援の内容

当社ならびに親和銀行は、本日、ふくおかF Gならびに福岡銀行に対して、経営支援要請を実施いたしました。

経営支援の内容といたしましては、親和銀行の事業継続性を確実なものとするため、以下の要請をさせていただいております。

- (1) 地域金融システムの安定化と地域経済の活性化に資する磐石な経営基盤を構築するため、ふくおかF G傘下において経営再建を進めていくこと
- (2) 不良債権問題との訣別を図り、将来に亘り安定した財務基盤を構築するに足る自己資本の増強を支援いただくこと

当社ならびに親和銀行といたしましては、ふくおかF Gならびに福岡銀行からの経営支援が円滑に実行されるよう、当社株主のご理解を賜ること、親和銀行の抜本的な財務処理を実施すること、その他所要の手続を進めることなど、あらゆる努力を尽くしてまいります。

なお、ふくおかF Gからは、経営支援の具体的な検討について、早急に当社ならびに親和銀行と協議を開始する旨の回答を受けております。

・親和銀行役員の変動

以下のとおり親和銀行役員の変動がございましたのでお知らせいたします。

【退任】

日付	旧役職名	役員名
平成19年5月2日	専務取締役	津留 正純
平成19年5月2日	常務取締役	新名 孝至
平成19年5月2日	社外取締役	柴戸 隆成

以上

本件に関するお問合せ先
総合企画グループ
TEL: 0956-23-3606

本資料には、将来の業績にかかる記述が含まれております。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意ください。